

## H28年度 中間評価・実行可能性調査（FS）評価（案）一覧表

## 【ソフト分野・中間評価】

(H27採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)*
27-1	2	II	研究名	災害・日常時の道路の信頼性とその総合・長期的評価の研究開発:幹線道路ネットワークデザインと維持管理計画	金沢大学 教授 中山 晶一郎	13,710	B
			概要	災害・日常時の両方で信頼性の高い道路ネットワークの整備を目指して、連結・時間信頼性を考慮した総合的な便益評価法を実用化し、それをういた道路ネットワークデザイン手法を提案する。そのために、道路施設の脆弱性評価や通常時旅行時間変動の推定などの要素技術を開発する。また、長期にわたり信頼性を確保するためにその維持管理計画策定法も提案する。			
27-2	3	II	研究名	多様な観測データの活用による道路情報提供の研究開発	山梨大学 大学院 教授 佐々木 邦明	10,990	A
			概要	多様な観測データが利用可能になってきたことを活用し、観測データを援用した道路や空間の状態変化を高精度に予測できる交通シミュレーションの開発を目的としている。状態変化とは、短期の経路別の需要変化や、ゾーンの時間帯別滞在人数、事故等のイベント検出等を指し、これらの予測結果を活用して情報提供およびマネジメントを支援する。			

(H28採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)*
28-1	-	IV	研究名	ETC2.0 プローブ情報等を活用した“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究開発	東京工業大学 准教授 福田 大輔	32,990	A
			概要	長期かつ広域で観測される ETC2.0 プローブ情報等の交通関連ビッグデータを、マルチスケールの多様な交通モデルと有機的に結びつけることで、交通政策のエビデンスベース評価を可能とする“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究・技術開発を行う。また、首都圏、北海道、沖縄を対象として提案する各手法の社会実装(調査・分析・政策評価フレームの構築)を行い、各種交通社会実験の詳細検討に資する知見を提供する。			

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)*
28-2	-	IV	研究名	蓄積車両軌跡データの効率的活用のための階層型データベースの構築	神戸大学 教授 井料 隆雅	25,930	A
			概要	近年蓄積が始まっている車両軌跡データの潜在価値は大きいですが、この種のデータは巨大かつ品質が不安定になりがちであり、ナイーブな方法で扱うと早晚破綻を見る。本研究では、品質を管理し集計単位で階層化された車両軌跡データベースを構築し、その活用例を示す。			
28-3	-	IV	研究名	複数のデータを活用した道路のストック効果の計測技術の再構築	広島大学 准教授 塚井 誠人	42,600	B
			概要	ETC2.0 データから得られる交通状態の質的指標を用いた新たな事故リスクの分析、携帯電話ビッグデータを用いた観光地のトラベルコスト評価、ならびに工業団地等の地価分析を実施して、道路のストック効果算出のための計測技術を再構築する。			
28-4	1	II	研究名	ワンウェイカーシェアリングシステムの導入可能性と道路空間の新たな利活用方策についての研究開発	熊本大学 教授 溝上 章志	12,930	B
			概要	再配車を行わないワンウェイカーシェアリングシステムの我が国における導入可能性とその効果の検討、ステーション型の場合の最適デポ配置、フリーフロート型とした場合の道路空間の新たな利活用方策などについて調査・研究する。			
28-5	5	II	研究名	アジア都市における‘場’の機能を持った道路設計・運用に関する研究開発	横浜国立大学 教授 中村 文彦	12,950	B
			概要	日本を含むアジア都市における交通結節点徒歩圏の道路空間を、都市活動の拠点となる「場(Place)」として改善する設計・運用方法を構築する。そのために 1)現況の利用実態の特徴と課題提示、2)都市活動特性に応じた設計・運用技術提案、3)実証実験による評価を行う。			

## ※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【ハード分野・中間評価】

(H26採択・3年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)※
26-4	8	II	研究名	高性能鋳鉄床版の開発	九州工業大学 教授 山口 栄輝	22,980	B
			概要	床版に適する高性能鋳鉄の一体成形性と自由形状性を活かした応力集中緩和と溶接レスの実現により、疲労性能の高い安価な床版を開発する。既存RC床版を軽量化鋳鉄床版に置き換えることにより、既存橋梁の長寿命化及び耐震性の向上を実現するとともに道路拡幅の可能性を高める。			

(H27採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)※
27-3	4	II	研究名	沢埋め道路盛土の経済的な耐震診断と耐震補強の開発	神戸大学大学院 教授 澁谷 啓	27,000	B
			概要	沢埋めの古い道路盛土における災害が依然として多く、また、それらが被災した場合の影響は非常に大きく復旧にも多大な時間を要することになる。本委託研究は、このような被災事例が多い沢埋めの道路盛土を対象に、物理探査と簡易なサウンディングの組合せによる合理的な耐震診断法と、土のう構造体を用いたのり先補強による経済的な耐震補強工を開発するものである。			
27-4	8	II	研究名	薄板モルタルとデータ同化手法を利用したコンクリート橋の3次元塩分浸透予測手法の開発	新潟大学 教授 佐伯 竜彦	10,290	B
			概要	本研究は、飛来塩分環境下にあるコンクリート橋への塩分浸透状況を3次元的に把握するシステムを構築することを目的とする。このために、以下の要素技術を開発し、それを組み合わせる。 (1)薄板供試体とデータ同化手法を用いて、飛来塩分量解析の境界条件を同定する手法 (2)(1)を利用し、橋梁全表面における飛来塩分付着量、即ち、コンクリート中への塩分浸透解析の境界条件となる表面塩分濃度を求める手法 (3)環境条件の影響を考慮した不飽和コンクリートへの塩分浸透予測手法 (4)薄板供試体の効率的な製造・貼付け・回収方法			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

(H28採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	中間評価 (案)※
28-6	4	II	研究名	新設コンクリート構造物における表層品質検査手法の確立	広島大学 准教授 半井 健一郎	21,110	B
			概要	これまで直接的な検査が不可能とされてきた、コンクリート構造物の耐久性を支配する表層品質を、非破壊試験の組み合わせによって定量的かつ合理的に評価する新たな検査システムを構築し、道路ストックの長寿命化の推進に資する。			
28-7	6	II	研究名	市街地におけるプロビーム道路照明についての研究開発	北海道大学 教授 萩原 亨	7,800	A
			概要	街路における夜間の横断歩行者事故を防ぐ必要がある。ドライバによる横断歩行者の発見を早める方策とし、街路におけるプロビーム道路照明を開発する。プロビームとは、車両の進行方向に光を照射する方式である。ヘッドライトと照明協調することで歩行者の発見を早めることが期待できる。			

【ハード分野・実行可能性調査(FS)評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H28委託額 (千円)	FS評価 (案)※
28-8	8	I	研究名	鋼橋の現位置改良工法の開発	(一社)日本橋 梁建設協会 部長 大野 豊繁	9,180	B
			概要	本研究は、損傷した鋼橋を現在の位置で供用しながら、維持管理がより容易な新構造へと改良する新しい工法を開発するものであり、その特徴は、既設主構造から新設主構造へと耐荷機能を移行することである。工法の適用性、安全性と実用性を実験と解析で検証する。			
28-9	8	I	研究名	市町村のニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発	愛媛大学 教授 氏家 勲	9,200	B
			概要	市町村の橋梁点検において、狭小橋梁の点検に伴う通行規制、および点検時の損傷見落とし等が課題となっている。本研究ではこれら課題の解決のため、通行規制を伴わない近接装置および点検支援システムを開発し、狭小橋梁の点検の迅速化、高精度化を同時に達成することを目指す。			

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はありと評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。